

各位

株式会社 JCU
代表取締役社長兼 CEO 木村 昌志

環境配慮型「装飾用黒色3価クロムめっき品」の抗ウイルス効果確認 JCU、6価クロムめっき品に比べ80%以上を不活化、SDGsの取り組み加速

株式会社 JCU（代表取締役社長兼 CEO：木村昌志）は、装飾用黒色3価クロムめっきプロセス「JCUTRICHROME JTC-BK」で処理した素材表面においてウイルス不活化試験を行い、ステンレス材と比べ99%以上、6価クロム（従来プロセス）処理品と比べ80%以上のウイルスをそれぞれ不活化したという結果を得ました。本プロセスは、めっき薬液中に人体に有害とされる6価クロムを使用しない環境配慮型製品で、自動車部品のドアハンドル（写真）、フロントグリル、エンブレムなどに採用されています。環境配慮型製品であることに加え、抗ウイルス効果も確認されたことから自動車部品はもちろん、ステンレス材や装飾・機能性を必要とするさまざまな部材への採用を働きかけ、人々の生活の質の維持、向上にも貢献してまいります。

ウイルス不活化試験は、地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所で行いました。試験方法は、まず、金属皮膜面にインフルエンザウイルス（H3N2）液を滴下し、その上にポリプロピレンフィルムを被せて密着させ、25℃の室温で24時間静置しました。その後、インフルエンザウイルス液を回収し、プラーク法にて感染力を持つウイルス量の指標である感染価割合を算出しました（図1）。その結果、装飾用黒色3価クロムめっきプロセス処理品は、人が日常で手に触れやすいステンレス材と比べて99%以上、自動車部品等に使われている6価クロム処理品と比べて80%以上のウイルス不活化がそれぞれ認められました。また、装飾用白色3価クロムめっきプロセス「JCUTRICHROME JTC-WH2」処理品においても、65%近くのウイルス不活化が認められました（図2）。なお、ステンレス材以外の3つの処理品は、下地にニッケルめっき処理を施しています。

装飾用黒色3価クロムめっきプロセス「JCUTRICHROME JTC-BK」は、人が触れる素材最表面にクロム合金と呼ばれる金属皮膜を形成するプロセスで、人体に有害とされる6価クロムを使わない環境配慮型製品として2013年に販売を始めました。従来の6価クロムを用いたプロセスと同等の高級感ある黒色の光沢外観、優れた耐食性を有しています。

株式会社 JCU は、CSV（共通価値の創造）、SDGs（持続可能な開発目標）への貢献を見据えながら、技術開発、製品開発を推進しています。

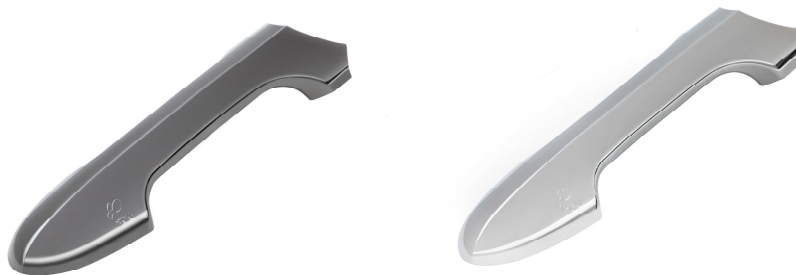


写真 装飾用黒色3価クロムめっきプロセス（左）および
装飾用白色3価クロムめっきプロセス（右）の使用例
—自動車ドアハンドル—

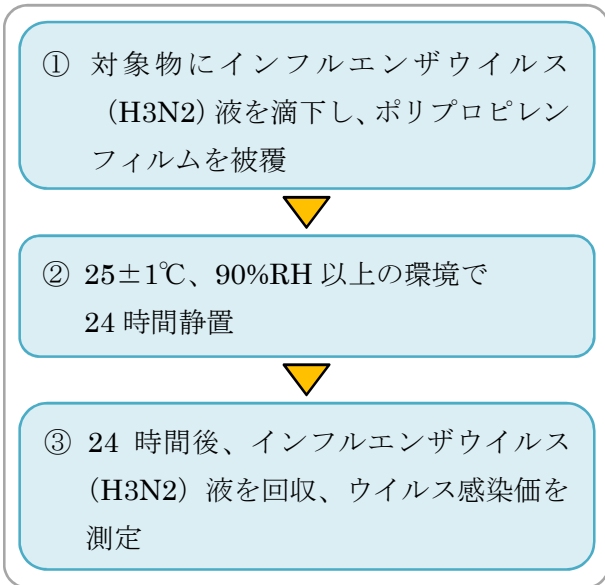


図1 ウイルス不活化試験方法
測定方法：プラーク法

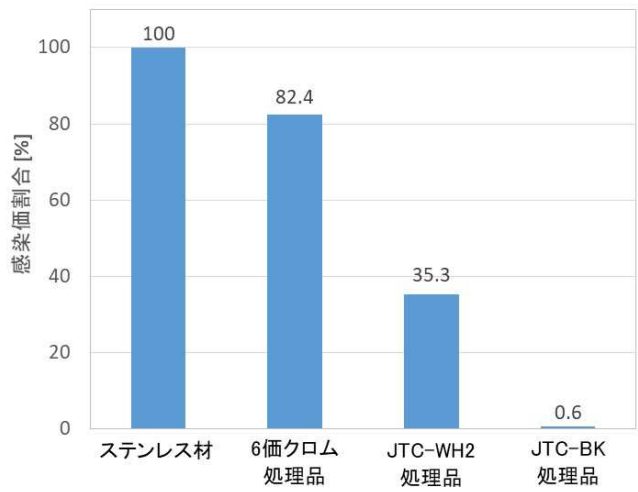


図2 ウイルス不活化試験結果

本プロセスに関わる SDGs (持続可能な開発目標)



【本件の問い合わせ先】

株式会社 JCU 経営戦略室 経営企画部 広報・IR 課

TEL : 03-6895-7004 FAX : 03-6895-7022 E-mail : kikaku@jcu-i.com

以上